

ジェンダー平等の実現

上田染谷丘高等学校 1年 清住明衣里

この課題に関わるSDGsの番号



テーマ設定の理由

同性愛者や両性愛者など少数派であるため世間からあまり好印象を受けないことがあったそうだが、今の社会ではSDGsの取り組みなどで LGBTQ の理解が得られてきている。そんな今の社会ではどのような LGBTQ に関する取り組みが行われているのか関心を持ったため。

現状

日本での LGBTQ人口は約8%~10%つまり10人に一人の割合。その中でも生きづらいつと感じている人は以下の通り半数近くいる。



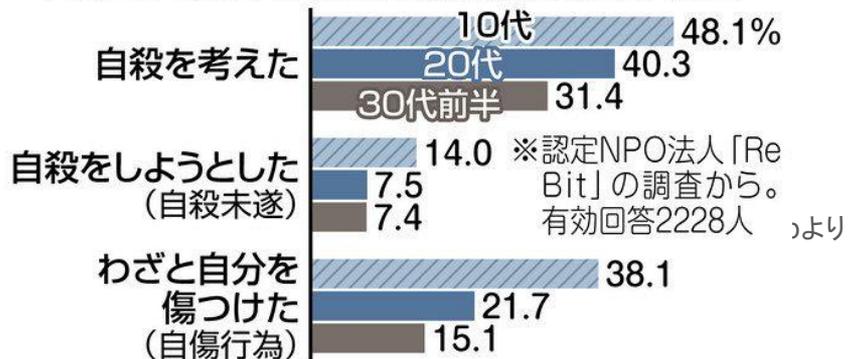
※1：いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン 平成25年度東京都地域 自殺対策緊急強化補助事業 「LGBTの学校生活に関する実態調査(2013)」

※2：中塚幹也(2010)「学校保健における性同一性障害：学校と医療の連携」『日本医事新報』4521:60-64

課題

現状で述べた通り、LGBTQへのいじめは小学校高学年から中学生あたりの二次性徴期に集中している。そのため10代 LGBTQの自殺念慮や自殺未遂の割合は上がっている。

LGBTQの若者の自傷行為などの割合



解決策

LGBTQの知識と理解が必要だが、それが必要なのは生徒だけでなく教員もそうだと思う。相談できる場が少ないという悩みよりも知識がない人が多いことが悩みとして大きいと感じる人が多いそうなので、心の準備ができたらいつでもカミングアウトができる状態にするのが必要だ。

10代からの提言

普段の私たちの心ない発言で誰かを傷つけてしまうことがあるかもしれないのでそういった配慮はしていかなければならない。

また、大人も LGBTQに関することを学ぶ機会を設けた方が良いと思う。

感想

LGBTQについて認知度は上がっているが、彼らが行きづらいと感じることは未だにあることに驚いた。そのような環境を自分たちが作っているのではないかと感じたので、さりげない配慮が必要なのかもしれないと思った。